

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

継時処理優位なのか？同時処理優位なのか？

知識が豊富なタイプなのか？頭の回転が速いタイプなのか？

¶突然ですが、先生は（あなたは）、家庭訪問をするとき、道に迷ってしまったとして

- ①道順を聞くとたどり着きやすいタイプですか？ ②地図を見るとたどり着きやすいタイプですか？

¶この「道順と地図」の質問は継時処理と同時処理の認知特性を説明する有名な例えです。道順の方がわかりやすい先生は継時処理型（一つの事を順を追って集中して処理していくのが得意）、地図の方が得意な先生は同時処理型（複数の事を一斉に処理していくことが得意）とされます。上記のようにフィーリングで「自分はこっちだなあ…」と感じることも面白いのですが、発達検査が上手に使えるようになると、自分の中の能力の凸凹を客観的な数字として捉えることができるようになり、「自分はこうすれば上手くいくんだ」という、自分の得意な方法による計画とか作戦が立てられるようになっていきます。近年の能力研究でも、自分の長所を活かした計画や作戦が立てられるようになると、「人の知能は変われる」とされています。

¶例えば、2011年に大改訂された K-ABC という検査ができると、子どもたちのどんなことがわかるようになるかを以下に書いていくと…

-概略-

- ①ルリア理論と CHC 理論の二つの理論に依拠している。（裏面）
②適用年齢が 2 歳 6 ヶ月～18 歳 11 ヶ月。
③認知尺度が継次処理、同時処理、学習能力、計画能力の 4 つ。
④20 の下位検査から構成されている。

¶K-ABC は認知処理 VS 習得度、継次処理 VS 同時処理というシンプルなモデルで分かりやすく長所活用による指導方針を提案できるところが魅力です。この発達検査が採れるようになると、以下の様に指導方略を立てられるようになります。要するに、子どもの「得意」を知ってあげることができて、「得意」を活かして問題を解決していくポジティブな支援を応援できるようになると言ふことです。

継次尺度	高い…継次型指導方略で指導
同時処理	高い…同時型指導方略で指導
計画尺度	高い…方略の使用を確認・利用
計画尺度	低い…方略や考え方を提示
学習尺度	高い…連合学習の高さを利用
学習尺度	低い…記憶術に関する対策

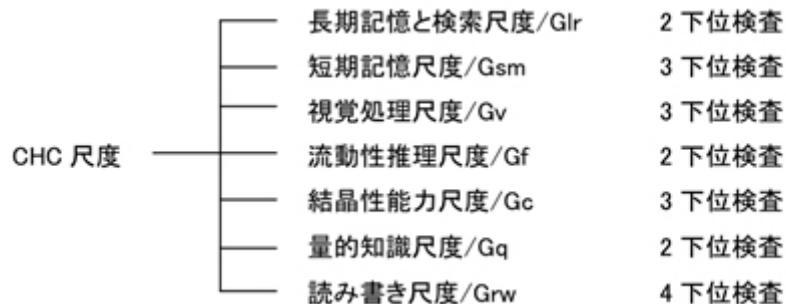
石隈,熊谷 (2013).臨床における KABC-II の解釈と活用.日本 K-ABC アセスメント学会大分大会発表抄録集

¶子ども自身が必要としている具体的な方法を発見できて、「自分はこうすればうまくいくんだ」と実感できるように支援ができる先生、発達検査が採れるようになることは、そんな先生に一歩近づくことかも知れませんね。

補足 K-ABC 概要

1 CHC モデル

『一般能力・広範的能力・限定的能力の3階層からなる心理測定学に基づく理論で、日本版KABC-IIはCHCモデルの広範的能力10のうち7つの能力を測定しています。



2 カウフマンモデル

『ルリアの神経心理学理論における脳の処理機能としての認知能力と習得度（認知能力を活用して環境から獲得した知識および読み・書き・算数といった基礎的学力）を別に位置づけています。両者を合わせて子どもの知能と位置づけた場合、認知能力（認知尺度）に比べて習得度（習得尺度）の低い子どもは総合的に知能が低いと判断されてしまいます。カウフマンモデルでは、認知能力のレベルに合う習得度に到達させうる指導や支援を講じる必要があるとの観点から、両者を別の位置づけとされています。



3 KABC-II の下位検査

尺度 (CHC 尺度名)	検査内容	
継次尺度(短期記憶尺度)		
下位検査	数唱	一連の数字を言う。子どもは、同じ順序でその数字を復唱する。
位検査	語の配列	子どもに示す影絵の中にある物の名前をいくつか連続的に言う。子どもは同じ順序でその物の絵を指さす。
位検査	手の動作	いくつかの手の形を一連の動作でみせる。子どもは同じ順序でその動作を繰り返す。
同時尺度(視覚処理尺度) <注: CHC 尺度では[絵の統合]の値を使用しない>		
下位	顔さがし	1人または2人の顔写真を見せる。子どもは、次のページの写真の中からその人を見つける。
位	絵の統合	部分的に欠けている影絵を見せる。子どもは、それが何の影絵かを答える。

検査	近道さがし	子どもは、16分割、25分割、または36分割された庭の図版上で、最短ルート通つて、犬を骨まで移動させる。
	模様の構成	子どもは、大きさや色・形の異なるピースを使い、見本(モデル)と同じ模様をつくる。

計画尺度(流動性推理尺度)

下位 検査	物語の完成	何枚かが空欄になっている物語を構成する一連の絵を見せる。子どもは、物語を完成させるために必要な絵カードを選び、空欄に置く。
	パターン推理	ある規則に従って並んでいる数個の絵(図形)を見せる。1カ所だけ絵(図形)が欠けており、子どもは、当てはまる絵(図形)を選択肢の中から選ぶ。

学習尺度(長期記憶と検索尺度)

下位 検査	語の学習	無意味な名前がつけられたカテゴリーの異なる架空の絵を見せる。子どもは、次のページの一連の絵の中から、検査者が名前を言った絵を指さす。
	語の学習遅延	[語の学習]を終了し、決められた検査の実施後(およそ20分後)、[語の学習]で覚えた名前の絵を、子どもに指さすよう指示する。

語彙尺度(結晶的能力尺度)

下位 検査	表現語彙	絵や写真を見せ、子どもはその名前を答える。
	なぞなぞ	子どもはなぞなぞを聞き、答えの絵を指さすか、単語で答える。
	理解語彙	単語を読み上げ、子どもはその単語が示す絵を指さす。

算数尺度(量的知識尺度)

下位 検査	数的推論	絵を見せて問題文を読む。子どもは、それに答える。
	計算	子どもは習得尺度シート[計算]の問題を解く。

読み尺度および書き尺度(読み書き尺度)

下位 検査	ことばの読み	子どもは、提示されたひらがな、カタカナ、漢字を声に出して読む。
	ことばの書き	習得尺度シート[ことばの書き]を用いて教示を読み、子どもはひらがな、カタカナ、漢字を書く。
	文の理解	動作を指示する問題文を子どもに見せ、子どもはその通りの動作を行う。後半では、問題文を子どもに見せ、子どもはそれに答える。
	文の構成	子どもは、習得尺度シート[文の構成]に示された「ことば」を使って文をつくる。